



十一月(小)霜月

張宿

(十二月七日立冬の節より)
月命丁亥二黒土星の月
暗剣殺西南方

旧九月大
十月大

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	只宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
1日	土	きのえ	五黄	灯台記念日、教育文化週間、新米穀年度、計量記念日 旧九月大	十二	友引	たつ	胃	くま日	6.03 16.46	14.11 0.47	14.11 0.36	7.24 20.31
2日	日	きのと	四緑	十三夜、唐津くんち	十三	先負	のぞく	昂	ぢう日	6.04 16.45	14.38 1.49	14.48 1.42	21.04
3日	月	ひのえ	三碧	明治神宮例祭、東京足立血沼不動万灯祭	十四	佛滅	みつ	畢	月とく	6.05 16.44	15.06 2.58	15.14 2.56	21.38
4日	火	ひのと	二黒	消費者センター開設記念日	十五	大安	たいら	觜	十し	6.06 16.43	15.37 4.10	15.41 3.47	22.14
5日	水	つちのえ	一白	○望二二時一九分、世界津波の日、小つち	十六	赤口	さだん	参	●	6.07 16.42	16.12 5.25	16.09 5.41	22.51
6日	木	つちのと	九紫	京都松尾大社上卯大祭、不成就日	十七	先勝	とる	井	神よし	6.08 16.41	16.54 6.43	16.37 7.07	23.30
7日	金	かのえ	八白	立冬一三時〇四分	十八	友引	とる	鬼	天おん	6.09 16.40	17.45 8.03	17.07 8.14	—
8日	土	かのと	七赤	世界都市計画の日、ふいご祭、京都伏見稲荷火焚祭	十九	先負	やぶる	柳	天おん	6.09 16.40	18.46 9.18	17.38 9.18	—
9日	日	みづのえ	六白	一、九番の日、太陽暦採用記念日、京都嵐山紅葉祭、京都空也堂開山忌	廿	佛滅	あやぶ	星	神よし	6.10 16.39	19.55 10.23	18.10 10.23	13.01
10日	月	みづのと	五黄	秋の全国火災予防運動(9日、15日)	廿一	大安	なる	張	天おん	6.11 16.38	21.06 11.15	18.44 11.15	13.42
11日	火	きのお	四緑	世界平和記念日、十方ぐれ入り	廿二	赤口	おさん	翼	●	6.12 16.37	22.16 11.59	19.56 11.56	14.38
12日	水	きのと	三碧	○下弦一四時二八分、一粒万倍日	廿三	先勝	ひらく	軫	十し	6.13 16.36	23.22 12.34	20.50 12.34	16.25
13日	木	ひのえ	二黒	一粒万倍日	廿四	友引	とる	角	五む日	6.14 16.35	—	23.44 13.22	19.00
14日	金	ひのと	一白	三隣亡、不成就日	廿五	先負	たつ	亢	大みう	6.15 16.35	0.25 13.27	—	19.57

全国的な秋晴れはこの月に多いが、別称「霜月」といふように、北のほうから寒冷前線が下ってきて、局地的には天候が悪化したり、月半ばには霜が降りることがある。
立冬がすぎると、駆け足で冬がやってくる。健康上や家事の上で冬を迎える準備に怠りないようにチェックしよう。
【冠】十五日は「七五三」の宮詣りの日である。両親に連れられて、氏神様や名のある神社に参拝する日であるが、この「七五三」の慣行は歴史的にはそんな古くはない。しかし女の子七歳(帯結び)、男子五歳の祝い(袴着け)は、それぞれ独立して格式高い家庭で行われていた。また、男児、女児の三歳は乳幼児期を無事に過ぎ、少年期へ成長するわが子に対する親心の現れであろう。本来、わが子の息災と加福を祈る素朴な祈願が、近時はやたら

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	只宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
15日	土	つちのえ	九紫	七五三、本州・四国・九州一般鳥獣狩猟解禁、豊川稲荷秋季大祭	廿六	佛滅	のぞく	氏	くま日	6.16 16.34	2.23 13.51	14.25 13.56	20.34
16日	日	つちのと	八白	将棋の日、奈良談山神社例祭、市川中山法華経寺御会式	廿七	大安	みつ	房	くま日	6.17 16.34	3.20 14.14	14.52 14.25	21.06
17日	月	かのえ	七赤	一茶忌	廿八	赤口	たいら	心	大くわ	6.18 16.33	4.18 15.03	15.18 14.52	21.37
18日	火	かのと	六白	一茶忌	廿九	先勝	さだん	尾	神よし	6.19 16.33	5.17 15.03	15.44 15.18	22.06
19日	水	みづのえ	五黄	一茶忌	三十	友引	とる	箕	大みう	6.20 16.32	6.17 16.05	16.10 16.05	22.35
20日	木	みづのと	四緑	●朔一五時四七分、天一天上 旧十月大	朔	佛滅	やぶる	斗	ぢう日	6.21 16.32	7.17 16.17	17.04 16.36	23.04
21日	金	きのえ	三碧	京都東本願寺報恩講(28日迄)、近松忌	二	大安	あやぶ	牛	神よし	6.22 16.31	8.14 17.30	17.32 17.04	23.34
22日	土	きのと	二黒	小雪一〇時三六分、防府天満宮裸坊祭	三	赤口	なる	女	大みう	6.23 16.31	9.08 18.33	18.01 17.32	—
23日	日	ひのえ	一白	○勤労感謝の日、熊本八代妙見祭、笠間稲荷神社秋祭、不成就日	四	先勝	おさん	虚	●	6.24 16.30	9.55 18.21	18.01 17.32	—
24日	月	ひのと	九紫	振替休日、二の酉、一粒万倍日	五	友引	ひらく	危	十し	6.25 16.30	10.15 19.17	18.33 18.01	12.55
25日	火	つちのえ	八白	神道修成派教祖教霊大祭、一粒万倍日	六	先負	とる	室	くま日	6.26 16.29	11.12 20.22	18.33 18.01	13.32
26日	水	つちのと	七赤	炉開き、旧亥の子餅、三隣亡	七	佛滅	たつ	壁	くま日	6.27 16.29	12.11 21.26	19.13 18.33	14.18
27日	木	かのえ	六白	●上弦一五時五九分、税関記念日、親鸞聖人忌、東京品川千体荒神大祭	八	大安	のぞく	奎	—	6.28 16.29	13.04 22.29	20.12 19.13	15.28
28日	金	かのと	五黄	とおかんや、島根出雲大社神迎祭	九	赤口	みつ	婁	五む日	6.29 16.29	14.03 23.34	20.12 19.13	15.28
29日	土	みづのえ	四緑	岡山最上稲荷火焚祭	十	先勝	たいら	胃	大みう	6.30 16.28	15.06 23.34	20.12 19.13	15.28
30日	日	みづのと	三碧	—	十一	友引	さだん	昂	天火	6.31 16.28	16.12 0.39	20.12 19.13	15.28

※現行太陽暦は天保暦明治五年十一月九日に採用され、同年十二月三日から実施された。

に華美におごり、お祭り事になり、虚栄の観が強いのはどういふものか。
【祭】二日は「文化の日」、戦前は四大節の一つで「明治節」といい、明治天皇の誕生日である。その遺徳をたたえ文明・文化の記念日として各地でいろいろの文化事業の催しが行われる。戦後、憲法の改正があつて呼称は変わった。
二十三日は「勤労感謝の日」で、勤労を尊び、生産を祝い、国民が互いに感謝しあう日と制定されている。
この月の干支(えと)によると「酉の市」ともいって、鷲(おとり)・明神の祭礼が行われる。開運の神として一の酉、二の酉、三の酉、と盛大であるが、三の酉まである年は、活気がありすぎて火事が多いといふ伝えられている。
この月の九日は「太陽暦採用記念日」である。これまで使われていた旧暦という言葉がでたが、いま現在われわれが使っている何月何日という暦は、明治五年の十一月九日に採用された太陽暦以来である。